

第24回那覇地区中学校軟式野球春季1年生強化試合大会要項

- 1. 主催** 那覇地区中学校体育連盟野球専門部
- 2. 期日** 令和4年12月17日(土)～令和5年2月11日(土)
- 3. 日程** 令和4年12月17日(土)～令和5年2月5日(日) 1回戦～3回戦
令和5年2月11日(土) 競技開始 9:00(準決勝・決勝戦)
予備日 2月12日(日)
- 4. 会場** 令和4年12月17日(土)～令和5年2月5日(日) 当該校で調整
令和5年2月11日(土) 各学校会場
- 5. 申込締切日** 令和4年12月2日(金)までに専門部長へ参加の有無を回答する
- 7. 申込方法** (1)大会参加申込用紙是那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を記入後、
学校長の捺印を受け、試合当日に各会場の本部へ7時30分までに提出する。
(2)各チーム試合球3球、ロジン1個を持参する。
- 8. 企画運営責任者** 那覇地区中体連野球専門部
大浜淳一(仲西中)石原孝之(松城中)渡嘉敷光範(仲井真中)仲村竜太(浦添中)宮國稔基(城北中)
久高陵太郎(首里中)安里博文(仲西中)一安裕次郎(上山中)宮良淳(神森中)野原大輝(浦西中)大城征一郎(古蔵中)
多和田真司(寄宮中)比嘉政人(石田中)仲本政毅(寄宮中)下里洋介(松島中)山城千尋(松島中)島袋剛(浦西中)
大城裕樹(首里中)座波清匡(鏡原中)高良政之(神原中)泉佑之介(神原中)瑞慶山良樹(神森中)照屋駿介(興南中)
當間栄太(仲西中)中山邦彦(安岡中)仲村俊哉(昭葉中)比嘉峻也(小禄中)
- 運営委員** 那覇地区中体連加盟校に所属する野球部全顧問
- 9. 参加資格** (1)那覇地区中体連加盟校に在籍する1年生で編成されたチームで、1校1チームとする。(合同チームも認める)
(2)学校長が選手として本大会に出場を許可したものであること。
(3)1チームは、選手20人、記録員2人、監督1人、コーチ2人の計25人とする。
※但し合同チームに関してはその限りでない(監督・コーチは最大4名以内とする。)
(4)選手の引率は、出場校の校長・教員とする。監督等については校長・教職員(常勤)とする。教職員以外のコーチについては、学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
(5)硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。
(6)参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)
(7)那覇地区中学校体育連盟が主催する大会に出場するチーム・選手の引率者、監督、部活動指導員、外部指導者(コーチ)、トレーナー等は、部活動の指導中における暴力・体罰・セクハラ等により、任命権者又は学校設置者から懲戒処分を受けていない者であること。校長はこのこの点を確認して、大会申請書を作成する。なお、外部指導者は校長から暴力等に対する指導措置を受けていないこととする。
- 10. 競技規則** 2022年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則、大会細則を適用する。
投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。
・大会中の1日の投球制限・・・100球
・1週間の投球数・・・350球
※試合中、規定投球数に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃を完了するまで投球できる。
- 11. 大会規定** (1)トーナメント方式とする。
(2)競技形式はトーナメント方式及びアテスト方式とする
検討事項 (3)1チームの選手参加人数の上限は規定しない。監督、記録員はそれぞれ1人、コーチは2人とする。
(4)背番号は、原則としてポジション順とする。21番以降の選手についても背番号を着用すること。
(5)試合は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。なお、決勝戦にも適用する。
日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合(サスペンデッドゲーム)を適用する。
(6)7回を完了して同点の場合は、のタイブレーク方式とする。(継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の奏者とする。すなわち0アウト・二塁の状態で行う。)10回を完了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決定するまでタイブレーク方式を続行する。
※天候の都合で日程変更がある場合は、本部で協議の上、特別ルールを設定する。
- 12. 試合球** 全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする
- 13. 組合せ** (1)令和4年12月14日(水)17時より、浦添市立浦添中学校コンピューター室(2階)で行う。
- 14. 表彰** 優勝チームには賞状、準優勝・3位のチームには賞状を与える。また、個人賞として殊勲賞・敢闘賞・打撃賞一位を表彰する。(個人賞は決勝戦進出校から選出し、打撃賞は準決勝、決勝戦をあわせた規定打席4打席以上の打者とする)
- 15. その他** (1)チームの責任は、引率者において、一切負うものとする。
(2)今大会の上位4チーム(合同チームを除く)には、第33回 那覇地区中学校軟式野球1・2年生強化大会へのシード権を与える

第24回那覇地区中学校軟式野球春季1年生強化試合細則

1. 試合時間 (1) 試合時間は100分とし、その60分前までには集合する。
(2) 連続試合の場合は間隔を30分とする。
2. オーダー交換 (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(5部提出)
(2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。
但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
3. ダックアウト (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。
登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
(2) ダックアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
(3) ダックアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
4. シートノック (1) シートノックは、全試合後攻より行う。時間は5分間とする。
(2) シートノック時のみ、補助員(5名以内)を認める。なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。(2年生可)
(3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。
(4) 1日で2試合を行うチームは、シートノックを1試合目のみ行う。なお、天候などにより球場を移動して試合を行う場合は、本部に確認の上、シートノックを行う場合もある。
※天候の理由でシートノックを行わない場合もある。その場合は試合時間を早めることもある。
5. 応援 (1) コロナ感染拡大防止の為大きな声を出しての応援は慎む。(太鼓・鳴り物は禁止)
(2) 今大会、有観客試合とし、保護者・控え部員を含めた人数は制限しないとする。ただし、感染症対策を十分に行うこと。
チームで万が一感染症が発生した場合は速やかに追跡
(3) 会場入りする名簿を作成する。その名簿は、試合終了後、本部に提出すること。
調査ができるように、大会終了後、専門部長で保管する。
(4) 応援する保護者・控え部員は、ネックストラップ型の指定されたID(校印付き)の着用を義務づける。
6. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限 (1) 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3度以内とする。
なお、延長戦(タイブレークも含む)となった場合は、1イニングに1度行くことができる。
また、攻撃側についても同様とする。
7. 監督が投手の所へ行く回数の制限 (1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は 3回以内とする。なお、延長戦(タイブレークも含む)は、1イニングに1回行くことができる。
(2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
8. 用具 (1) リストガード、バットリング、トレーニングバット、マスコットバット、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。
(2) 手袋は、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(3) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
(4) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.・SGマーク)が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロートガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
9. 試合のスピード化 (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(ランナー無し・・・12秒以内に投球、ランナー有り・・・20秒以内に投球 ※詳細は競技者必携にて確認)
(4) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
10. その他 (1) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。
(シューズ・スパイクにおいては令和4年度までの大会において色の混在を認める。なお、高校野球対応のものとする。) コーチ(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
(2) ストッキングの形をしっかりと統一する。
(3) 選手交代は、監督が球審に告げること。
(4) 球場内においての試合前の練習はユニフォームを着用すること。
(5) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
(6) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。
(7) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
(8) 審判は各校から成人1名、中学2年生以上1名の計2名を派遣する。審判員は2・3年生の野球部員または父母の協力を得て良い。
(9) 準決勝からは那覇地区中体連野球専門部職員で行う。

※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大会冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。